

会 議 録

会議の名称	平成29年度第6回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成29年12月6日(水) 午後7時～9時
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	搦木道代議長、本間雄一副議長、荒川照子委員、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木真理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1. 協議事項 (1) 家庭学習応援事業の現況について (2) 「家庭教育支援」につなげる方策 2. 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

○議長あいさつ

2. 協議事項

(1) 家庭学習応援事業の現況調査について
事務局より説明。

【議長】意見をお願いします。

【委員】教科の特質があると思う。数学や算数については、分野がある。試験範囲が図形であれば、関数ができなくても問題ない。英語は、最初から習ってきた文法などが、積み上げ方式になってくるため、わからなくなってくると、そのままわからない状態になってしまう特質があるのでは。

【委員】保護者が、子どもとこの事業について会話をしているかどうかだが、家庭学習の定着を考えると、親子での会話がある程度ある方が望ましいと感じる。程度にもよるが、「おかえり」などのあいさつだけでなく、受講していることで、子どもがどのように感じているか、保護者が会話の中で聞き取りをすることで、定着が図られていくのではないか。会話がないと、「ただ公民館やコミセンに行っているだけ」になり兼ねない。

【委員】保護者のイベント参加の希望確認だが、「希望する」と「実際行く」というのは違ってくると思われる。希望が高いことは非常によいことだが、他のいろんな企画でも、思ったより参加者が少なかったということがある。確実に参加につなげるため、実際行う時には趣旨などを明確に、足を運びやすいように考える必要がある。

【委員】今まで、塾に行っていない児童生徒がほとんどであることから、宿題以外の学習の習慣は基本的にないと思われる。サタデースクールやイブニングスクールに通うだけでも環境の変化はあるため、学習習慣をつけるためには、保護者の関わりが大事。

【委員】家庭学習の習慣化という生涯学習課の趣旨を、参加者にきちんと伝えるための方策を考えていたら、教えてもらいたい。

【事務局】家庭学習を図るものとして、宿題チェックシートというのがある。講師が毎回確認を行い、やってきていない子については、個別に対応している。また、保護者へ趣旨を伝える場として、2月頃に、親子で学習会を開けないかと考えている。一方的に話を聞く講義形式ではなく、事業の趣旨や親子の関わり方などの講話と、保護者間で意見交換ができるものを行いたい。

【委員】状況調査の中で、「以前より自信がついた」「興味関心が高まった」「自分でできる問題が増えた」など、非常に前向きな意見が多くあるため、効果があったと思われる。

【委員】中学生については、受験を控えているということもあるが、成績にリアルに反映（テストの点数があがるなど）してくると、もっと効果は期待できると思われる。

【委員】この事業の参加理由としては、親や先生の勧めなど、受動的な部分が多いと思うが、終える頃には「家庭学習の仕方がわかった」「毎日、机に向かって

取り組むようになってきた」などの事項に対して、満足度が得られるようになると、とてもよい。

【委員】現時点では、授業を受ける前と後で変わった点として、「わからないのがわかるようになった」など、瞬発力はでたと思うが、家庭学習の定着で考えた時に、「やり方がわかった」や「環境が整った」という部分が必要になってくると思う。また、家庭学習の時間についても、授業を受ける前にどの程度やっていたのかというところで比較が行えないと、意味がないと思うため、それが図れるようなアンケートをとるとよい。

【委員】この事業の効果として、保護者にきちんと趣旨を理解してもらうことがとても必要だと感じている。サタデースクールやイブニングスクールに参加したことで、家庭学習や基礎学力が定着するということではなく、ここで習得したことを、いかに家に帰って反復するか、ということが大事になってくる。そのため、趣旨の理解をしてもらうことがとても大事。

【委員】最終的にアンケートをとる時に、この事業は家庭学習と学力の双方の要素を含んでいるが、より家庭学習に重点を置くのであれば、そちらを前面に出してとるのが望ましい。

【委員】学習の環境として、一昔前は集中できるように子どもは子ども部屋で勉強するというのがよいとされていたが、今は対面式や親の目の届く範囲で行うなど、リビングで行うのが良いとされる傾向もある。

【委員】スマホやゲームなど、誘惑物も多いと思われるが、親に限らず同居している祖父母なども、子どもに勉強を教えるというのではなく、子どもが勉強している姿勢を見守るというのが大事なのではないか。

【委員】この事業が、家庭での学習について考えるきっかけになってほしい。

【委員】家庭学習にしても学力にしても、保護者の関わり方が大事。進学塾では、できる子どもになればなるほど、保護者の関わりが積極的になる。

【委員】子どもを育てていて、ちょうど週休2日制や円周率が「3」になった時だった。この子たちは、大丈夫だろうか？という不安を多くの保護者が感じていた。今、その子たちが20歳を超えた成人となり、大学や就職など、きちんと生きる力を身につけて人生を選択しているのを見て、ホッとしている。やはり、親が子どもに関心をもつことが、とても大事だと思っている。先日受けた研修で「3間（時間・仲間・居間（居場所））のない子どもたち」という話をきいた。共働き世帯も多く、なかなか親が子どもを見られないため、地域で子どもを育てていこうという話もある。この事業についても、親に子どもへの関心を持ってもらえるように「家に帰ったら、ちょっとでも子どもと会話しようね」など、働きかけができればとてもよいと感じている。

【委員】点数があがるなど、学力の結果がすぐに出た方がよいのかもしれないが、この事業に参加している子たちの中には、家で落ち着いて勉強できる環境にない子もいると思う。結果がすぐに出なくても、環境づくりはとても大事。

(2)「家庭教育支援」につなげる方策
案について、事務局より説明。

【委員】事業そのものが初めてのため、「行かせてみたけど、どういう状態なんだろう」

と思っている保護者は多いのではないか。そのため、新しい題材だと結びつかないと思うが、今年度スタートしてからの状況報告と、これからの話や、今年度のまとめということであれば、保護者からみても関連付けがされるのではないか。

【委員】保護者の率直な意見が聞かれるとよい。

【委員】学校の授業参観でも保護者の参加が厳しいという話もきかれるが、この事業については、学校とは別で、実際参加をしてきて、出席率も各教室90%を超えていることから、保護者の関心も高いと思われる。

【委員】以前、食事を入れて親の学習を行ったことがあったが、子どもたちにおにぎりを作って、それを食べさせている裏で、親の学習を行った。食育の話であったため、食事を用意したが、作ることがメインになると、本来保護者に伝えたいことが伝えられないということも考えられるため、何に重きをおくかによるのではないか。

【委員】今の保護者の方は、本当に働いている方が多いのが現状だと思う。非常に疲れることだろうし、子どものことになかなか目が行き届かないというのも、気持ちとしてとてもよく理解できる。しかし、これから生きていく上で、高校進学や就職や大学など考える力や生きていく力を身につけるために、勉強は必要であり、少しでも子どもとコミュニケーションをとることの大切さを保護者の方に伝えたい。

【委員】今回サタデースクールに参加したことについて、向き合う場にしたらよいのではないか。実際参加して、保護者や児童がどのように感じたか、意見を交換できる場がよい。そのため、子どもも一緒に参加という形がよいのではないか。

【委員】勉強とは異なる場で話を聞くと、「ウチの子は、そういう風に考えていたんだ」「親は、こんなふうに思っていたんだ」など、発見があるのではないか。また、そこで話したことが家に持ち帰られれば、相乗効果になるのではないか。

本日の意見を参考に、次回会議にて、実際の学習会の案を提示する。

次回会議日程

平成29年度第7回会議

日程：平成30年1月24日（水）午後7時～

場所：教育委員会 会議室

3. 閉会

○副議長あいさつ